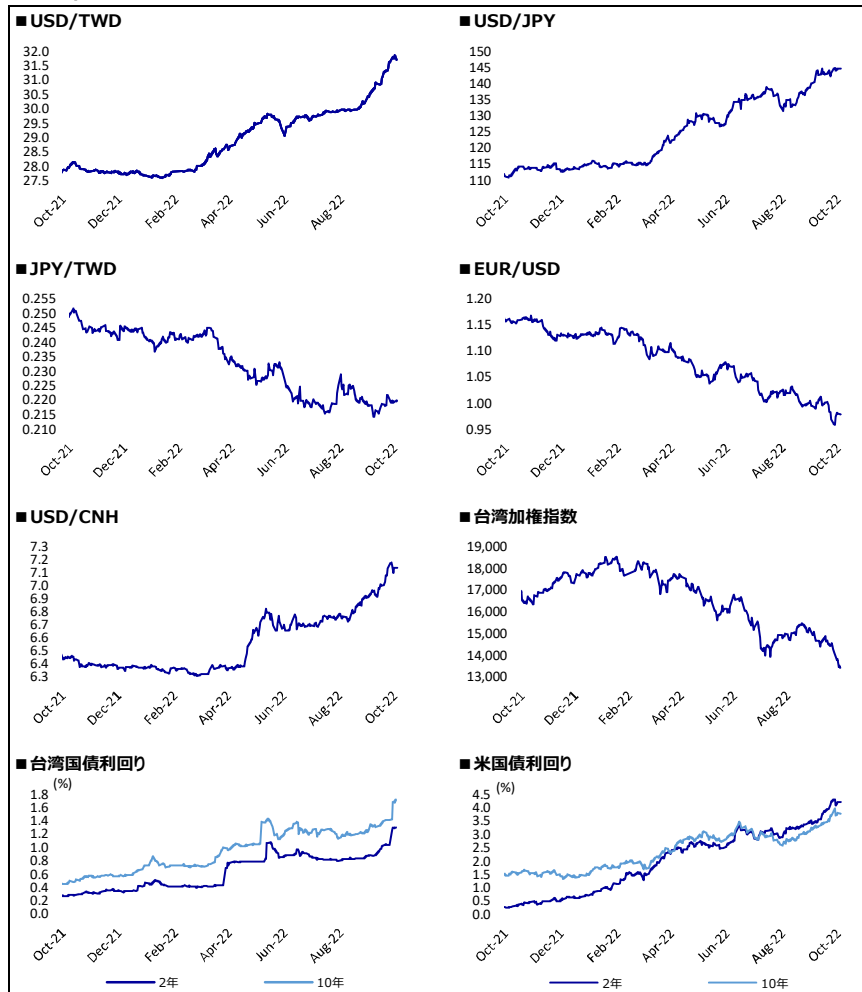


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初9/26は31.710でオープン後、外国人投資家の海外への送金や輸入企業・個人投資家のドル買いが拡大し、一時2017年1月以来の31.9台に乗せ、31.901まで上昇。しかし午後に入ると上値を押さえる動きも入り、31.8台に戻した。9/27は台湾株が下げ止まり外資が流入したことや、月末の輸出企業のドル売りから、31.76付近まで下落。しかし、9/28は米金利の上昇を受けてアジア通貨が売られる中、台湾ドルも売りが優勢に。ただし、月末の輸出企業のドル売り等もあり高値圏では上値は重く、31.88付近で推移。9/29は台湾株が反発し、一時31.8台を割り込んだが、輸入企業がドル買いを進めたことから31.85付近まで戻した。9/30は外資の流入と月末の輸出企業のドル売りから、31.74付近まで低下。最終的に先週比0.2%ドル高台湾ドル安の31.743で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は334.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初9/26は143.44でオープン後、英国で財政悪化が懸念される中、欧州通貨に対してドルが買われるとつられてドル円も上昇し、144円台を回復。その後も米長期金利が大きく上昇するとドル円は144円台後半まで上昇。9/27も米金利の上昇につられて一時144.90まで上昇したものの、為替介入への警戒感から上値は重く推移した。9/28は英中銀が長期国債の買入れを発表し欧州金利が低下したことや、月末・期末絡みの債券購入もあり、米金利が低下すると、ドル円は一時143円台後半まで下落した。9/29は再び144円台後半まで戻したものの、為替介入への警戒感が煽る中、方向感はず、レンジで推移。9/30も米8月個人支出が予想を上回り、PCEコアデフレーターも予想を上回ったことから、ドル円は144円台後半まで上昇するも上値は重かった。最終的に先週比1.0%ドル高円安の144.75で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.700-32.100
先週は月末に絡むドル売りがあったため上値は押さえられたが、金融引き締めによるリセッション懸念から米債安米株安の流れは変わっておらず、32台を試す展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：143.00-146.00
今週は米雇用統計等重要指標の発表を控えている。足許のドル円は円買い為替介入以降、警戒感から上値が重い展開が続いているが、ISM、雇用統計と発表が続くことから内容次第では介入時の145円台を試すことになるだろう。

今週の予定

10/3 (MON)	日銀短観、米9月ISM製造業景気指数
10/4 (TUE)	米8月製造業受注
10/5 (WED)	台湾9月外貨準備高、米9月ADP雇用統計、米8月貿易収支、米9月ISM非製造業景気指数
10/6 (THU)	台湾9月CPI
10/7 (FRI)	台湾9月貿易収支、米9月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。